
奴隸商人の娘

沖野弓月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奴隸商人の娘

【NZコード】

N5747V

【作者名】

沖野弓月

【あらすじ】

望月莉々子は、気がついたら森にいた。困っていたところを同じく気付いたらこの世界にいたらしいう3人組に拾われるが、同じ立場のはずの3人が自分と比べ遙かに多くの面で恵まれていてことを知り愕然とする。なりゆきでなった奴隸商人の養女という立場を利用して、恵まれた人間全員に復讐するある一人の女の物語。

じある女の事情（前書き）

誤字・脱字をつとめています。
稚拙な文章しか書けませんが、宜しくお願いします。

となる女の事情

V R M M O R P G “ W i S ” テストのテスター募集への申し込み有難う御座いました。

厳正なる抽選の結果、お客様はご当選されましたので、下記のご確認をよろしくお願ひ致します。

テスト期間：2088年3月18日（木）14:00～2088年3月21日（日）12:00

参加資格

- ・日本国内に在住する18歳以上、当選者のみ

テスト概要

- ・レベル上限をLV25とします。
- ・一部マップには進入制限が掛けられています。
- ・一部クエストには受託制限が掛けられています。
- ・ゲーム内にGMキャラクターがログインする場合が御座います。
- ・テスト中に作成したキャラクターデータ等は全てリセットされる予定となっております。
- ・テスト中、何らかの不具合が発生した場合はスケジュール等変更させて頂く場合が御座ります点、予めご了承頂けますようお願い

致します。

- ・ テスト終了後、一部仕様や機能の変更、追加機能の実装を行つ場合がござります。
- ・ テストは不具合の発見、修正やサーバー負荷の検証、ご参加頂いた皆様のご意見を頂く事を目的としております。期間中ご参加頂いた皆様にご意見を求める場合がありますので、その場合はご協力ををお願いします。

重要

- ・ ゲーム機本体・ダイブヘルメット・その他周辺機器は、テスト後返却して頂きます。
- ・ ゲーム機本体を設置する場所の確保をお願い致します。
- ある程度耐荷重強度のある水平で安定した場所、3～5畳程度の広さが必要です。
- ・ 当社が期間中提供する製品はとても高額です。
- 万一 テスト中に故障した場合に備え、テストに参加される方全員に免責保険制度への加入をお願いしております。
- つきましては、以下口座に8,000円の入金、同封してある免責保険制度加入同意書に必要事項を記入し、3月3日迄に当社にお送り下さい。

振込先銀行名： - 銀行
普通預金
店番号：001（本店営業部）
口座番号：*****

名義

振込手数料等はお客様のご負担となります
入金確認には2営業日ほどかかります

金石錄卷之三

同意書と入金の確認が取れ次第、改めて担当者よりご連絡させて頂きます。

免責保険制度加入に同意を頂けない場合は、
テストにご参加頂けませんのでご注意下さい。

ご意見、何かご不明な点でもありましたら〇* - 3* 78 - * 9*

特典

- ・ テスト参加者には仮想世界内で役立つ素敵なアイテムをプレゼント！

テスト終了後キャラクターデータはリセットされますが、特典はどちらも正式オープン時に受け取れます。

「アカウントにつき1特典。複数の特典は受け取れませんのでご了承下さい。」

その他

テストへの参加資格は当選者のみに御座います。

参加資格を他人に譲渡することは出来ません。

テスト中は、当選者以外の人物による一切のプレイを禁止します。

万一当選者以外の人物によるプレイが発覚した場合は、厳しい措置を取らせて頂きます。

皆様に楽しんで頂けるゲームを目指し関係者一同努めて参りますので、
今後とも“WiS”^{ワイズ}をよろしくお願い致します。

お客様の、夢溢れる仮想世界への旅立ちをお待ちしております。

* * *

この日アルバイトが終わって家に帰つて来てみれば、郵便受けには色々と入っていた。

携帯料金の請求書と電気料金の請求書、ダイレクトメール2通、良く利用している美容室の案内 そして、大きめの白い封筒。

これだけ沢山色々とポストに入っているのも珍しいなと思つ。
しかし、白い封筒は一体何だろ…この大きさからして書類の類だろうか。通つている大学から?いや、大学名などどこにも書かれていない。聞いたこともない会社名があるのみだ。

不思議に思いつつも、いい加減寒いし一先ず家に入ろうとバッグの

中から比較的真新しいブランドのキーケースを取り出す。鍵を開けて、ぱつぱとエナメルの黒いパンプスを玄関に脱ぎ捨てた。電気を点け、楽な部屋着に着替えて、化粧落として綺麗に化粧を落とす。

帰宅後毎回行われるいつもの行動パターンをこなしてから、ソファに座った。

そうしてから漸く、例の白い封筒の中身を確かめてみることにした。

「……何、これ？」

ちょっと困惑した。

というのも、良く分からぬ内容の書面と、これまた良く分からぬ免責保険制度加入同意書なるものが入っていたのである。

“W
i
S” テスト？

はつきり言って何それ、である。

一通り文面を読んではみるもの理解など出来ず。

テスター募集の申し込みなんてした覚えなども、私には無い。

そもそも8・000円を口座に入金しろとか…怖いし、怪しそうだろ。

これはきっと、アレだ、アレに違いない　　新手の詐欺。

不快感に知らず知らず眉間に皺が寄った。

どう考へてもお金を要求されるあたり真つ当じやない。

詐欺の横行する物騒な世の中では、隙を見せた者が真つ先に喰い物となる。好奇心は猫を殺す……とも言ひし、記載されている電話番号に掛けて、この手紙は一体何なのだと尋ねるなんて愚かな行為は絶対にしてはいけないだろ。電話機の前で獲物はまだかまだかと詐欺師が待っているに決まってる。女誑しと詐欺師は口がうまいと昔から決まっているのだ。

甘言に唆されて、騙されるのは御免だつた。リスクは無い……少しでも不審なものは無視するのが一番。

だから、ぽいつと捨てた。

万一重要な書類だつただどうするのか、だが。
重要なものだつたら……まあ、また何かしらの連絡が再度来るだろ。つきと。だから大丈夫。

ああ、ああ……

「そういえば、お腹空いたな……タジ飯の準備しよう。」

お腹をさすりながら、タジ飯を用意する為に立ち上がる。

冷蔵庫に何入つてたつけ?ミネラルウォーターとお酒しか入つていかもしない、いや、確か卵と野菜がいくつか入つてたはず……なんて考えながら、私はキッチンへと向かつたのだつた。

* * *

ゴミ箱に捨てられた白い封筒。

この時の私は知る由もなかつた……
まさかそれがとんでもないシロモノだったなんて……
知らなかつた、何も知らなかつた……

とある女の事情（後書き）

主人公はチートですが、よくある俺TISHIEE的な戦闘能力に特化したチートではないです。

主人公は悪女です（なのに愛されです…ご都合主義すみません）正直、誰得？ 誰も得しません、私得な物語です。

じある掲示板のやつとつ

VRMMOゲーム“WiS”について語るスレ【79】

1 : ただの名無し : 2088/2/24(火) 12:46 ID :
???

VRMMORPG “WiS”について語るスレです。
荒らし・煽りはスルー推奨。

次スレはくく8888さんにおまかせ。

重複を避けるためにも、早めのスレ建てと誘導をお願いします。

テスト期間

2088年3月18日(木) 14:00~2088年3月21日(

田) 12:00

正式オープン

2088年8月8日(田)

前スレ

VRMMOゲーム“WiS”について語るスレ【78】

2 : ただの名無し : 2088/2/24(火) 12:48 ID :
???

テスター当選者には、2月24日~2月25日の間に当選のお知らせが届きます
こない…こないよ…

3 : ただの名無し : 2088/2/24(火) 12:47 ID :

? ? ?

< < 1

乙です

4 . ただの名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 47 ID :

? ? ?

こねー

5 . ただの名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 47 ID :

? ? ?

同じく、届く気配なし。

噂では倍率500倍? とからしいし... そう簡単には当たらないよな...

6 . ただの名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 47 ID :

? ? ?

< < 1

乙 KONA I .

7 . ただの名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 48 ID :

? ? ?

友達の弟の友達の一一番上の兄貴に当選のお知らせが来たつてさーえ? 僕? 僕にはきてないけど? w

8 . 幸運な名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 49 ID :

? ? ?

そんな皆さんにお知らせです。

当選キタ━━━!!!! ガチに当選キタ━━━!!!!

9 . ただの名無し . 2088 / 2 / 24 (火)

12 : 49 ID :

? ? ?

< < 8

おおおおおおおおおおおお

10 : ただの知無じ : 2088 / 2 / 24 (火) 12 : 49 I

D : ? ? ?

< < 8

マジか！おめでとう！

11 : ただの知無じ : 2088 / 2 / 24 (火) 12 : 50 I

D : ? ? ?

< < 8

うわー！羨ましいーおめでとう！

12 : ただの知無じ : 2088 / 2 / 24 (火) 12 : 50 I

D : ? ? ?

< < 5

500倍！？すげえな、そんなにあつたのかよ…知らんかった…

< < 8

なん…だ…と…ー？羨ましきる…本当に幸せな奴だな、おめでとう…

13 : 幸運な名無し : 2088 / 2 / 24 (火) 12 : 52 I

D : ? ? ?

テストのレベル上限は1~25

免責保険制度への加入同意と8000円口座振込み必須

テスト参加者には仮想世界内で役立つ素敵なアイテムをプレゼント
ある特殊クエストをクリアされた方には特別なプレゼント

主な内容はこんな感じ。さっそく銀行行って金振り込んでくるー

14：ただの名無し・2088／2／24（火）

12・52 I

D：？？？

<<13

行ってらー

15：ただの名無し・2088／2／24（火）

12・53 I

D：？？？

<<13

いつてらっしゃい

確かテスター募集の時書かれてた保険の金額は1万円だったよな？
安くなってる

* * *

VR MMOゲーム“WiS”について語るスレ【125】

1：ただの名無し・2088年3月19日（金） 17：03 I

D：？？？

VRMMORPG“WiS”について語るスレです。

荒らし・煽りはスルー推奨。

次スレは<<888さんにおまかせ。

重複を避けるためにも、早めのスレ建てと誘導をお願いします。

テスト期間

2088年3月18日（木）14：00～2088年3月21日（

日）12：00

正式オープン

2088年8月8日（日）

前スレ

VRMMOゲーム“WiS”について語るスレ【124】

718：ただの名無し：2088年3月19日（金）20：33

ID：???

誰か種族と職業教えてくれー！キャラクター作成どんな感じかk w
sk

719：ただの名無し：2088年3月20日（金）20：34

ID：???

<<718

前スレに書いてあるぞ、よく読め

720：ただの名無し：2088年3月20日（金）20：35

ID：???

<<718

ビジュアルはかなり細かく設定出来る、かなり綺麗、そしてかなり
作成面倒

種族 ヒューマン、エルフ（ダーク・ハーフ）、獣人（ランダム決
定）

職業 ウオリア、ランサー、ファイター、アーチャー、ソーサラー、
ブリースト、アサシン

721：ただの名無し：2088年3月19日（金）20：36

ID：???

迷いまくつて俺はキャラ作成だけで1時間以上掛かったww
しかしこだわつただけあつて会心の出来w俺のキャラ超かっこいい
ぜww

722 : ただの名無し : 2088年3月19日 (金) 20:36

ID : ???

<<720

かなり作成が面倒つてのに同意
だから俺はあえてのビジュアル修正無しでいく

723 : ただの名無し : 2088年3月19日 (金) 20:37

ID : ???

<<721

ナルシスト? 残念なやつwww

いくら髪とか目とか体型変えられても、所詮はキャラの顔のベース
自分だしwww

<<722

ビジュアル弄らん奴もいるとは..結構少数派だろ。お前変身願望と
か無いの? w

724 : ただの名無し : 2088年3月19日 (金) 20:39

ID : ???

不細工 ちょっとイケメン、イケメン 超超イケメンって感じで劇
的にランクアップする感じ?

仮想世界の中では誰もが美形になれる。

ただ、どんだけ弄つて美形になつても、面影は不思議と残るんだよ
なー。

725 : ただの名無し : 2088年3月19日 (金) 20:39

ID : ???

情報まとめ【1】

・キャラクター作成

自分自身をベースに音声誘導に従つて作成する
種族はヒューマン・エルフ・獣人の中から選択
種族によって初期ステータスに若干差有り
種族によって職業・魔法属性の固定や制限あり（エルフはブリーストになれない等）

獣人の中にはレアな種類もいるらしい

ダークエルフは テストでは選ばない方が賢明かも

性別は変えられない模様

顔のパーツ（目を大きくしたり鼻を高くしたり）変更可、現実より大幅美化可能

肌・髪・瞳の色変更可、体型・身長調整可、声の変更は出来ない
職業はウォリア、ランサー、ファイター、アーチャー、ソーサラー、

ブリースト、アサシン

魔法属性はランダム決定（土・水・火・風・光・闇）

武器支給

・チュートリアル

案内人の獣人のお姉さんが現れる（ちなみにネズミ。なかなか可愛い）

冒険者としてモンスターを倒せと、問答無用で町のギルドに連れて
かれて登録

「ギルドに行きますか？」と聞かれて「いいえ」を選び続けるとお姉さんに怒られる

ギルドの訓練場でモンスターとの戦い方のレクチャー受ける（スキンプ可）

ステータスの説明、スキルの説明、魔法属性について教えてもらう
(スキップ可)

初めてのクエストは薬草収集。おつかい。ラット(Lv1) の

駆除

情報まとめ【2】に続く…

726 : ただの名無し : 2008年3月19日(金) 20:40

ID : ???

<<725

乙です！

727 : ただの名無し : 2008年3月19日(金) 20:41

ID : ???

<<725

魔法属性はランダムじゃなくて好きに選べたらしいのに
あと不評な点といえば… 食事か
何食べてもなんとなく基本味感じる程度でおいしくないってのはち
ょつとなあ…

728 : ただの名無し : 2008年3月19日(金) 20:41

ID : ???

<<725

おつー

性別変えられないのかーネカマ済田だなww

729 : ただの名無し : 2008年3月19日(金) 20:43

ID : ???

俺の友達でさ、ウサギの獣人に職業ランサー選んだ奴がいるんだけど
ど…

ちなみに男な

730 : ただの名無し : 2008年3月19日(金) 20:43

ID : ???

<<729

ちよwww

731 : ただの名無しさん : 2008年3月19日(金)

20:44

<<729

ID:???

どうせネタだろ

ほんとだつたら...いくじ...

732 : ただの名無しさん : 2008年3月19日(金)

20:45

<<729

ID:???

想像したらフイタw

ウサギ×ランサーとかやつちゅういけない組み合わせだろw

しかも男つてwないわw

733 : ただの鬼だし : 2008年3月19日(金)

20:46

<<731

信じるか信じないかはあなた次第です

<<732

偏見いくない

とある新婚夫婦の会話

「番組の途中ですが、たつた今届いた速報をお伝えします

2

088年に起こった『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム“WiS”』テストプレイヤー大量同時死亡事件』の、遺族側が運営会社に890億の損害賠償などを求めた集団訴訟の判決で、裁判所はつい先程、遺族側の訴えの棄却を命じました

『プレイヤーの死亡とゲームの因果関係は現状立証することは出来ない、よって運営会社側に賠償責任は問えない』との弁護側の訴えが全面的に認められた形となるこの結果に、今後社会にもゲーム業界にも大きな影響が出るのは必須で…』

リビングにあるソファーに深く座り、妻に煎れてもらつたやや温くなつた珈琲を味わいながら、テレビ画面を見つめる。

麗らかな休日の昼下がりを和やかな気分で過ごしていたといふのに、この清楚系美人なアナウンサーは物騒な事件を思い出させてくれた。とても美味しかつた珈琲が一気に苦々しくなつたように感じて、ゴクリと無理矢理嚥下した。

『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム“WiS”』テストプレイヤー大量同時死亡事件』

数年前起こつた、日本どころか世界中を震撼させた事件である。

仮想世界に潜つて、君も冒険しよう！

簡潔だがゲーム好きならば誰もが心踊るであろうそんなキャッチコピーをウリにして、万を期して2088年夏の発売を発表されたのがVRMMORPG “WiS”だ。

仮想世界は元は医療面での利用を期待されて研究されていたのだが、構築に成功するや否や、結局は需要と経済効果からゲームという娯楽に技術は転用された。

仮想世界に潜る為に必要な機械一式、税込なんと44万（メーカー希望価格）間違つても簡単に出せるような金額ではないが、それでも予約は殺到した。詳しい数は知らないが、風の噂では先行予約の時点でも200万セットとかなんとか言うから、凄い。技術大国日本産、世界初仮想世界でのゲーム… というのに誰もが期待し胸をときめかせていたのである。

“WiS”は発売される前から嵐のような社会現象を引き起こしていた、恐ろしいゲームだった。

しかしその“WiS”が本当の意味で恐ろしいものとなつたのは、テストが好評のうちに終わり、正式サービスが始まる そう、前日のことだった。

この日、厚生労働省の発表によると3049人の日本人が死んだ。

2088年8月7日土曜日。

死というものは人間に對し平等に訪れるもの、日本では平均にする
と一日に約2000人が病氣やら寿命やらで死んでいるらしいが

3049人という人数は些か多いのではないかと感じると思う。
まあこの日は記録的な猛暑だったし熱中症なんかで亡くなった人
が多かつたのだろうと結論づけるのは簡単だろう、それも紛れも無
い事実であるし　　が、しかしだ。ある事実が発覚するや否や、
瞬く間に日本中、世界が騒然となつた。

亡くなつた3049人のうち、888人には共通点が見つかっ
たのである。

それは…

“WiS”^{ワイズ} の テストプレイヤーだった、といつ共通点。

* * *

「なあ由香里、あのWiSの事件覚えてるか～？」

キッチンに立つて夕飯の下拵えをしている妻に大きな声で話し掛け
る。

すると妻の由香里はエプロンで濡れた手を拭きつゝコビングにやって来た。

「なあに急に… W.i.S ってアレでしょ、何とかテストに参加した人が大量死した事件。騒ぎになつたし覚えてるわよ勿論。」

「何とかテストじゃなくて、 テストな。」

先日デパートで買つたばかりのピンクの可愛いフリルエプロンを外して、同じソファーに腰を下ろした由香里に視線をやる。夕飯の下拵えは終わつたのかと尋ねると、バツチリよという返事がウインクと共に返ってきた。

今日の夕飯は好物のビーフシチューと手作りのパン。今から夕飯が楽しみだ… ちなみにデザートは、近所のケーキ屋の一 日 20 本限定フルーツロールケーキらしい。

「それで? W.i.S の事件がどうしたの?」

「いや、今速報で裁判の判決が出たつていうから… 賠償責任は生じないつて、遺族側の敗訴。」

「えつ? 賠償責任なし? 嘘でしょ?」

「嘘ついてどうすんだよ… 遺族側が負けたつて、本当?。」

信じられないと田丸くして驚く由香里。

驚くのも無理はない、俺だつて驚いている。“WiS”のテストプレイヤーが全員死んだのに、そのゲームを作った会社に何の責任も無いだなんて。遺族側は到底納得なんて出来ないだろう。

「あれだけ沢山の人人が死んだのに敗訴つて…」

「死因に共通性がなかつたのが大きな理由だろうな。心臓発作で死んだ人もいれば、交通事故に遭つて死んだ人もいたみたいだしさ…」

“WiS”^{ウィス}のテストプレイヤー888人（男743人、女145人）が同じ日に死んだのは紛れも無い事実。
しかし、死因までは同じではなかつた それが、この事件の特異性を際立たせていた。

心臓発作で死んだ人もいれば、持病を悪化させて死んだ人もおり、交通事故で車に轢かれて死んだ人もいれば、面識の無い他人に電車のホームに突き落とされ死んだ人もいた。更には遺書を残し自殺した人もいたそうだ。

警察ははじめ、仮想世界にいつたことで身体と精神に何らかの負の作用が働いたのではないかと考えていたようだが、捜査が進み、テストに応募し当選したもののプレイ 자체はしていない、つまり仮想世界に行つていらない人が何人かいたことが発覚して、一気に捜査は暗礁に乗り上げた。

ゲームが原因での死ならばある程度は死因に共通点があるはずしかし、病死に事故死に自殺に他殺と、調べてみればみるほどテストプレイヤー達の死因はバラバラ。警察も訳が分からなかつたことだろう。懸命な捜査は一向に報われることなく、底無し沼に足

をとられてしまったかの如く謎は深まるばかりだった。

身の毛がよだつ、不気味な事件。

それが『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム“WiS”』テストプレイヤー大量同時死亡事件である。

そんな事件の裁判である。

運営会社に責任ないという判決には疑問が残る。しかし、ゲームとプレイヤー死亡の因果関係が裁判で立証出来なかつたのは、無理もないことかもしれない。

ちなみに、事件が発覚してすぐにゲームの発売は中止、長い年月を掛け精巧に構築されたWiSの仮想世界自体も永久閉鎖され、社会に与えた影響が大きすぎたのだ。今や、仮想世界に関するすべてがタブー視されていると言つてもいい。

「……俺さ、実はWiSの テスター募集に申し込んでたんだ。」

「え！？」

「今、この場にいることからも分かるように…落ちたけどな。」

ぎょっとした由香里の顔を見て苦笑する。

そんなに驚くことか？

テスター募集に申し込んでいた奴は、当時周りに結構、ゴロゴロいたんだが。

「亡くなつた人達に失礼かもしれないけど、俺当選しなくて良かつたよ。」

当選していたら、俺は今こゝにはいなかつただうつ。
きつと、死んでいた。

「……ほんとね。あなたが当選しなくて良かった。」

「？」

「改めて思うわ、こゝじて一緒にいられるのは幸せなことだつて。
一步間違えれば私たゞ、出会つゝとも、結婚することもなかつたの
ね。」

お、なんか良い雰囲気。

腕にぎゅっと抱きついてきた由香里を柔らかく抱きしめ返す。

「プレイヤー達が何で一斉に死んだのかは今も分からぬままだけ
ど…せめて、安らかには眠つて欲しいなと思うよ。」

「女りかこ…」

「由香里？」

「やうね、でも…」

何や、り不意に考え込み始めた由香里の顔を見つめる。

一体どこ…

「……もしかしたら全員、仮想世界の中で生きてたりするかも。眠ってる暇なんて無いかもしれないわよ。」

良い雰囲気だったのに、台無しだった。

「は？」

突拍子も無い由香里の言葉に瞠目する。

何を言い出すのかと思えば…仮想世界の中でプレイヤーが生きてるかも？

それ一体どこの中の小説だよ、と言いたくなつた。

「亡くなつた人達が仮想世界にいるとしたら、少しは救われると思わない？」

え？ 救われる、か…？

考えてみる。

亡くなつた人達は全員 テストプレイヤーである テストに応募するくらいだから、少なくともゲーム嫌いはいないはずだ。ゲーム好きな人がWiS^{ゲームの中}の仮想世界で生きる 確かにそれは、ゲーム好きなならば嬉しいことかも… しれない。ちよつとは救われるかも… しれない。

「……それって、ゲームプレイヤーの立場でトリップするの？ それとも仮想世界の住民として転生？」

「ああ？ そこまでは考えてなかつたわ。」

「…………」

そつそつだよな、俺は何を聞いているんだ。

由香里の不謹慎な妄想につつかりわくわく乗つかり掛けた自分が恥ずかしい。

「私は… そうだなあ、プレイヤーの立場でトリップする方が面白いとは思ひナビ… むつ君はどうちが良いと思つへ。」

「自分が言ひ出したことなのに設定甘いし、完璧他人事だなおい」

思わずツッコんだ。

なんかもう、抜けているというか、天然といつか…俺の嫁なのに、ついていけない。

しかし、ここでふと思つた。

“WiS”^{ウィス}はVRMMORPG。

危険なクエストに危険なモンスターが沢山いる設定の世界での、冒険ゲームだ。

もしも由香里の言つ通り、亡くなつたプレイヤー達が“WiS”^{ウィス}の仮想世界にいるとしたら

(彼らには本当、安らかに眠つてる暇なんて一切無いかもしけないなあ…)

まあ、所詮はすべて、ただの妄想だけれど。

鬱蒼と生い茂る木々の間から新緑の匂いがそよ風によつて運ばれてくる。

空を見上げればそこには“四角い太陽”が燦燦と輝いていた。

「…………

ビール袋片手に私は途方に暮れていた。

馬鹿みたいに呆然と立ち廻くしたまま、ただただ頭の中で考える

ここは何処だ、と。

お酒のストックが切れていたことに気付いて、プリントTシャツとズボンとサンダル、極めつけにノーメイクという出で立ちで財布だけ持つて家から徒歩5分の場所にあるコンビニに向かった。

ファッショング雑誌の立ち読みをして、缶チューハイ一本とビール一本、何だか無性に食べたくなってしまった海藻サラダを買って、店の外に出て。

それで、それで

?

ここから記憶が無い。

最後に派手な車のクラクション音が背後から聞こえた気がするが良く覚えてはいない。

「ハハ、何処……？」

気がついたら森にいた、なんて…ビビゾの映画か小説のよつだ。どうか、信じたくないし認めたくないけれど、明らかに地球じゃないよね？此処。だつて…あんな、四角い…詳細に表現するなら正方形ではなく長方形型の、奇怪な形の太陽が我が物顔で空にあるなんて…地球じゃ考えられないし、まずお目に掛かれないものだろう。それに私が立っている周りには、拳大の謎の白い実が生っている木とか、お好み焼きの上に乗った鰯節みたいにつねうねと動いている草とか、十数秒ごとに色が変わる花とか、摩訶不思議なものがいっぱいある　またにファンタジー。

夢を見ているのだろうかとも思つたが、ビビヤリソウでもないらしい。

夢じやない、夢だった良かつたのに。頬を思い切り抓るという古典的な方法で確かめてみたが、普通に痛かった　つまり、有り得ないが現実ということだ。

「ビビシテいうなつた…」

意味の無い独り言を漏らしたくなる。

と、「」で。

草陰から音が聞こえた。

嫌な予感がしつつも、恐る恐る音がした方向に視線をやると、そこには…

「…っ！」

見たこともない巨大な蜘蛛がいた。

漏れ出そうになつた悲鳴を必死で抑えた。

私の常識や理解の範疇からは逸脱しているが 間違いなく、蜘蛛だ。

血のように赤い体躯に白い斑点、八本ある脚は黒…なんて毒々しいコントラストだろう。

昔、ゴキブリより蜘蛛の方が気持ち悪くて嫌いだと言つていた友達が居た。その時私は、他の友達と一緒にゴキブリの方が嫌だよね等と言つていたのだが…今となつてはその発言を撤回したい。すぐ側にいるあの蜘蛛のおぞましさといつたら 気持ち悪すぎる、恐い、恐い…身体の震えが、止まらない。

ふいに、八つある黒曜石のような目が此方を向いた気がした。

捕食者の、目。

ゾワッとした。

分かつてしまつた。

あの化け物は私を獲物だと認識したのだ。

「つ

私は次の瞬間、生存本能からか全力でその場から走り出していた。此処が何処かも分からぬ、何処に逃げれば良いかも全く分からぬ。

でも、とにかく今は逃げなくてはならない、死にたくなければ逃げなくてはならないのだと、混乱しつつも冷静な部分がそう訴える。

私は走つた。
ひたすら走つた。

行く先を阻む邪魔な草や細枝は手で振り払い、前へ、前へ。
ぼこぼことした足場の悪い森の中、何度も転びそうになりながら人生初と言つていいくらいの必死さで疾走する。そのおかげで手と腕は傷だらけになり血が滲んでいる。痛い…けれど、どうだつていい。

あの化け物から逃れられるのならばこんな些細な傷 私は死にたくない。こんな訳の分からぬ所で、訳の分からぬ化け物に、訳の分からぬまま殺されて…死にたくない。

「はあっ、はあっ、はあ…」

がむしゃらに走つてどれくらい経つただろうか…5分か10分か、そんなに長くは走つていないとと思うのだが。ここへきて、何時間もずっと運動した後のような重い疲労感が私を襲つた。苦しくて、息をするのも辛い。

こんなに体力無かつたつけ?と自分で驚くと同時に、とうとう足が限界を迎へ、動かなくなつて、立ち止まつた。

流れ落ち田に入りそうになる汗を手で拭い去りながら、注意深く周りを見渡す。

幸いにもあの化け物の姿は無かつた…どうとか逃げ切れたようだ。

「…っ、はあっ、はあっ…は、」

大きく息を吐き、青い空を見上げ田を眇める。

眩しい、そしてやはり、私の知る空ではない。

長方形型の太陽から降り注ぐ陽射しが酷く不快だった…今すぐ空から消えて無くなつて欲しいと思つぐらじに。

地面が揺れているようだ、ふらふらとした足取りで木影に向かい、

力無く座り込む。ドサッと音を立てて手に持つていたビニール袋が地面に落ち缶チョーハイや走ったことで大分シェイクされたサラダが飛び出たが、それを気にする余裕はなかった。きっと私の顔色は最悪だろ？。

気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い、
気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い。

嫌だな、嫌だ、なんだかすゞぐ嫌。

どうして、どうして私がこんな目に遭わなくちゃならないんだろう。
込み上げる吐き気を口を強くつぶることで堪え、ドクドクと嫌にせ
わしなく脈打つ心臓を押さえた。

頭痛がある。

いたい。

意識が遠のいてゆく。

落ちる、落ちる。

嗚呼
……
落ち、
た。

「ん……」

どうやら意識を失っていたらしい。

目を開いたら、真上にあつたはずの太陽の位置がだいぶ下の方に変わっていた。

寝て起きたら自分の部屋にいた。なんて、都合の良いことは無かつたが、気分は随分良くなっていた。身体に倦怠感はあるもの、先程の調子の悪さと比べたらこれくらいの急さは軽いものだ。

木に寄り掛かったまま、近くの地面に落ちていたビニール袋を手繩り寄せる。中身を確かめるが、やはりとか何というか、海藻サラダはひどいことになっていた。ずっと陽に当たっていたし、走った時シェイクされたのかぐちゃぐちゃだし…これはもう食べない方が良いだろう。

(私の海藻サラダ…)

未練タラタラで、サラダを地面に置いた。

木の下にサラダを廃棄するのは不適切だしどつかと思ったが、このまま持ち続けていたらぐちゃぐちゃだろうが腐り掛けだろうが構わず食べてしまいそうだった…だから、思い切って捨てた。

食べたかった。

けど、今は食い意地張つてる場合じゃない。

そんなことより、もつと重要なこと。

このままいくとたった一人、この周りに木々しか無い場所で夜を過ごさなくてはならなくなる件について考えよ う、うん、考えるまでも無いわ。流石にそれはちょっと、いやちょっととというか…嫌だとか思う以前の問題で、無理だ、有り得ない。

アウトドアに慣れているわけでもないし、マッチもライターも無いので火を起こすことも出来ない… 獣避けに夜の森で火が必要不可欠なことくらいは常識として私でも知っている。この木々に囲まれた隠れ場所皆無いの場所で、火も無い、視界のきかない暗闇の中… 昼間遭遇した化け物がもしまった現れたら? 今度こそ死ぬ。死んでしまう。

無理だ、ここでのまま夜を迎えるなんて、考えるまでもなく無理無理。

というか、今更だが… 無防備に寝ていた自分の危うさに背筋が冷え
る。

生きてて良かつた。

と、「こちやんちやん」と考える前にひとまずここから移動しよう。
一力所に長時間留まっているのも危険な気がする。

それに最低限、夜までに川だけでも見つけておかないと…

本当は今すぐ不貞寝したいくらい、現実と向き合いたくない。気が鬱いでいる状態で、不気味な森の中を歩き回りたくない。

でもどうしようもないのだ。

ここにこのまま居座るのは危ない。そしてビール一本と缶チューハイ一本しか手元にないなんて、心許ない。人間にとつて水は必要不可欠なものである、この森から抜けるのは容易ではなさそうだし…生きたいのならば、水の確保はしておかなくてはならないだろう…あと出来れば食べ物も。

まあ、願わくば…

水や食べ物より、最優先で人間を見つけたいけれど。

「…………」

人は一人では生きていけないと、改めて思い知った気がする。

情けないことに、心細さに少し泣きそうだった。喜々として親元を離れて一人暮らしライフをエンジョイしていたこの私が、一人ぼっちを嫌だと心から思う時が来るなんて…人生つて本当に何が起こるか分からないものだ。

人が恋しい、な。

流石に今日中の人と出会つのは無理かな…なんて、沈鬱な溜め息をつきつつ。私はのうのろと立ち上がったのだった。

＊＊＊

陽がもう少しで完全に沈む。

「もう嫌…」

時計が無いので正確には分からぬが、かれこれ数時間は歩いている。

にも関わらず、水も、食べられそうなものも、確保出来ていない。私の考えが甘かったのだろうか…いや、確実に甘かったのだろう。道中木の実やら果物らしきものを見つけたりしたのだが、思えば、それらが食べられるかどうかなんて私には知識が無いから判断のしようがないのだった。つい先程見つけた黒い苺ブラックベリーなんか、本当に危なかつた…不気味な色だが、紛れも無く苺の形だし香りも甘酸っぱい果物のそれ。直感でこれは大丈夫、食べれそうだと判断、タダで苺狩りだ…なんて思いつつ収穫していたのだが、まさにその時小鳥が飛んてきて、小ぶりの黒い苺をパクリと一口 小鳥は痙攣して死んだ。

直感などといつものまつたく宛にならないのだと思い知った出来

事である…収穫した黒い苺はその場で即投げ捨てた。更にそれをぐちやぐちやに踏みつけたい衝動に襲われたのも致し方ないと思つ…結局しなかつたけれど。

「はあ

精神的疲労はピーク。

今日だけで何度溜め息をついただらう。
溜め息をつくと幸せが逃げる、という迷信がもしも本当ならば、私の幸せストックは底をついただろう…こんな森に居る時点で既に幸せとは程遠いけれど…

「ああ…サンダルがこんなに汚れちゃって…る…………ん?」

土で汚れたサンダルを見て嘆いていたら、遠くから、何か聞こえた
気がした。

氣のせい?いや、確かに何か聞こえる。

急ぎ足でしかし極力気配を消す努力をしながらその音がした方角に向かうと、喧嘩しているのだろうか。空気が震えるような怒号と金属が打ち合つ音がはつきりと耳に届いた。

現場から少し離れている場所から、木の影に隠れるよつとして恐る様子を伺う。

もう大分薄暗い為、目を凝らして音の元を確かめる。

(つ、人だ…！)

思わず息を飲む。

そこにいたのは、3人の人間だった。

男2人に女1人 妙な格好をしているし、男が振り回している
あれば剣？それに盾？ 良く分からなければ…推測するに、
3人共、所謂武装というものをしているらしい。

なんて物騒で近寄りづらい…

だがしかし、彼等が人間であるというのは紛れも無い事実。
気が張っていたのをやや緩め、早速近寄って話し掛けようと…した
ところで、3人以外の存在に気付いた。

(なに、あの… 気味の悪い… 緑の化け物…)

気付きたくなかったが気付いてしまった。

3人は、緑の化け物と対峙し戦っていた。

歪で、氣味の悪い、見ているだけで鳥肌が立つような化け物が3匹。
昼間遭遇した巨大蜘蛛もかなり醜悪だったが、今まさに彼等が戦つ
ている化け物もまた醜悪で、恐ろしかった。

「おいハヤト、1匹そつちで引きつけてくれー！」

「了解！ルミ魔法はまだかつ！？」

「無垢で清純なる蒼き聖主よ、我が祈りを聞き入れ給え　　清冽
なる水よ、集い来たれ、集え、集え、集え、理から外れし不浄なり
しものを葬り去れ！」

ローブ姿の女の子が何かを唱えると、どこからともなく無数の水の塊が空中に現れ、それらは3匹の化け物に殺到した。

反応が遅れた化け物は、避けることも出来ずに諸に水の塊を身体に受け　　相当の衝撃があつたらしい、ギィギィと耳障りの悪い醜い断末魔の叫びを上げ…地に倒れた。

「やっぱ魔法つえーなあ。詠唱には時間掛かるけど、攻撃手段としてはペリカイチ。」

「今回は言い間違いをしなかつたからちゃんと発動したな……途中つかえてはいたけど。」

「むひひハイジったらヒノ」と馬鹿にしてるでしょおつー・レミは学習能力ある大人なんだから……前回みたいな詠唱の間違いもう絶対しないもんねっ！」

「どうだか……ま、ひとまず魔法書無し詠唱出来るよつ頑張れ。」

「魔法書無し……えええっ……それは無理だよ……ヒノ、暗記とかすつ」
「……」

「いや、でも威力のこと考えるとやっぱ魔法書より杖の方が良いだろ?頑張れよ。」

「うう……それは分かつてるけど……」

ゴソゴソと慣れた手つきで化け物の死体を漁りながら、軽快に会話を交わしている3人組。正確に言うのなら死体を漁っているのは男性陣で、紅一点女の子は分厚い本を抱え側で立っているだけなのだ

が…それでも醜い化け物の死体を近距離で直視しているのは間違いない。良く平然としているな、と感心すると同時に驚いた……私だけなら気持ち悪さにとっくに逃げ出している。

(何だか話し掛け辛いなあ……)

親密な雰囲気の中に入していくのは躊躇われる。
しかし背に腹はかえられないわけで。

勇気を出して、身を隠していた木影から出て行つた。

「あの……」

ひかえめに声を掛けみて。
すると……

「誰だつ！
「敵かつ！？」

瞬時に臨戦体制。

驚かすつもりはなかつたが、驚かせてしまつたようだ。

女の子は目を見開いてパチパチと数回瞬きするだけだつたが、男性陣は見事に警戒モード。

女の子を背に庇いつつ、剣と槍を構えて牽制してきた。

下手なことを言つたら突撃されそうな危うい雰囲気である。親の仇とでも言わんばかりの鋭い眼光に射抜かれて、思わず半歩後退る。

「て、敵意は無いです……あのっ、私気付いたら森の中にいて……それで……」

とにかく何か言わなくてはと、しどろもどろに事情を説明する。敵意は無い、気付いたらこんな森にいて困っている、誰かいないかと彷彿歩いていた、と。

ひどく纏まりの無い内容だったが、私の必死さだけは伝わったのか、暫くして剣と槍は下ろしてくれた。

3人は困惑した様子で顔を見合わせ、ボソボソと何かを話し合い始めた。

私もまた困惑して3人を見つめ、話し終わるのを所在無く待つ。

「ねえ……あなたもレミ達とおんなじ、テストプレイヤーだよね？」

話し終わったのか、女の子が話し掛けてきた。

残念ながら聞かれた内容の意味は全く分からなかつたが。

「 テストプレイヤー？」めんなさい…良く分からないです。」

「あれれ？でもその格好といい見た目といい日本人なのは間違いないよね？」

「え？日本人…ですけど…」

「うへへへん？落ち人なのは間違いないのに、プレイヤーじゃないつじじうこうことお？」

「“WiS”ってゲームは知ってるか？」

「テスト当選通知を受け取った覚えは？2月の下旬頃。」

男性陣からも問い合わせられる。

“WiS”
“WiS”
“テスト当選”

それらの言葉を聞いて、んん？と思つた。

何だか覚えがあるようなあ…あつた、あるある、覚えがあつた。

思い出されたのは、詐欺だと思って捨ててしまつた大きな白い封筒のこと。

確か“W·S”やら“テスト”やら私には良く分からぬ」といが
色々書いてあつた、あれか。

「……8000円振り込め、とか書いてあつたやつですか?」

「わうわう、免責保険の8000円な。」

「プレイはしてないみたいだけど、仮説は崩れてないな。」

「ねつーせつぱつあたし達の仮説当たつてるっぽいね。」

仮説とは一体何なのだろう?と思つたが、今は聞けなやうだ。
といつのも、

「ひとまずメンバーと早く合流したいよね。どうある?」

「多分あいつらシャルバールの方にいると思つ。」

「シャルバールかなあ、それ俺も一緒に行つてもいいか?」といつ
か正式にメンバーになりたいんだけど、流石にこの状況でソロはき
ついわ。」

「もつひ句言ひてるの? Hイジはもつひく私達の仲間でしょ
一緒に行くに決まってるじやん!…ね、そつだよなハヤト?」

「ああ、一緒に行こ。」

きやつ キヤ 言いながら可愛らしく笑む女の子。

肩を組んで仲良さげに話している男性陣。

そして、一人寂しく立っている私。

「…………」

会つたばかりだから仕方がないのかもしれないが、会話に全くついていけない。

私は空気の読める人間なのだ。盛り上がりつつテンションの高い人達の中にズカズカと入つていける訳がなかつた。

(ううん…居心地、悪いなあ…)

居心地悪いだなんて失礼なことを考えられる立場ではないということは重々分かつていい。彼等に見捨てられて困るのは私なのだから。だが、どうも私と彼等では根本的に性質^{タイプ}が違うといふかなんというか…平時だったらまず話し掛けないし、友達になろうとは思わないだろう。それくらい、今この場所に一緒にいることに違和感があつた。

つまるところ、早くも分かつてしまつたのだ。

私の思い込みかもしれないし、勘違いかもしれないけれど。

私と彼等は…

“ 合わない ”

夜が訪れた。

空にはキラキラと輝く満天の星々と三日月。……どういう原理だかちつとも分からぬのだが、昼間の四角い太陽が沈んで夜がやつて来たと思つたら、空にはブカブカと三日月が浮かんでいた。そう、三日月である。……色はピンクグレープフルーツの果肉のような色だけれど、間違いなく三日月である。……若干の差異や違和感はあるものの元の世界とそろは変わらない、夜のシンボル三日月。そんな夜空を見上げていると、何だか暗澹としていた心が癒される気がする。が、肝心なことを忘れてはならない。今自分が居るこの場所が、異世界でしかも不気味な森だということを。ほつと一息ついている場合ではないのだ。

夕方に出会つた三人組に引っ付いて、野営場所にやつて來た。

野営場所と言つても、水場も無いただの平坦な場所である。こんな場所で大丈夫なのだろうかと不安になつたが、荷物を置き、慣れた手つきで作られた焚火の周りを囲むように三人が地面に座り込んだのを見たら、何も言えない。私も慌ててそれに続いた。

火に集^{たか}るように無数の小虫が耳障りの悪い羽音を響かせ飛び回つている。

虫鬱陶しいな……なんて頭の中で考えていたら、話が始まつた。

「えっと、改めまして？自己紹介するね。名前はレミ。職業はソーサラー、レベルは23、見ての通りヒューマンだよ～」

無理に作ったのであるひつ笑顔で、そしてわざとらしく明るい声音で自己紹介した女の子の名前は、レミ、と言ひらしい。ふわふわとした柔らかそうな茶色に巻き髪。人形のように大きい瞳に長い睫毛。顔のパーツはどれもとても整っていて、尚且つバランス良く配置されている……若干童顔かもしれない、アイドルのように小柄で可愛い子だった。

「俺はハヤト。ウォリアでレベルは25。よろしくな～」

次に自己紹介したのは、若干色黒の男の子。何を考えているのか、いや、何も考えていないさそり……軽薄な笑みを口許に浮かべている。背は高く、十人中八人は格好良いと言つだらう、顔も整っている……私の好みではないけれど。

「エイジ。ランサーでレベルは25。ソロで気楽に気儘に遊んでたが、こんな状況じゃな～」

最後に自己紹介したのは、やや目つきの鋭い男の子。この中では一番背が高く、そしてガタイも良い。筋肉がムキムキといつ訳ではないのだが逞しい。無駄な肉が無さそう、という一流アスリートを前にしたかのような印象だ……ちなみに、当然のようこそ彼もまたイケメンである。

見事に三人共美男美少女。

目の保養になる……が、それより、自己紹介の言葉の内容の方が気になつて仕方ない。

「…………」

自己紹介を聞いてまず思ったのは “職業” って、何?だ。

ソーサラーにウォリアにランサー? それにレベルって? 何それ意味が分からぬ。

ヒューマンという言葉の意味は流石に分かる、英語で人間という意味だ 当たり前である。わざわざ教えられなくて、目の前の三人が人間だつてことは明らかだ。

「モチヅキ リリコ
望月莉々子、です……あの? 職業つて…?」

説明を求め視線を二人に向けると、レミが誰より早く口を開いた。

「そもそもさ~りっちゃんはWiSが何だか知ってるの?」

「…いえ、知らないです。」

りっちゃんとさりげなく言われたことが気になつたが、ここはスル

ーだ。

そんなことより現状を把握したい……何しろ何も分からぬのだ。
無知は恐怖。些細な情報でも喉から手が出る程欲しい。

「知らないー!?」冗談抜きにまつたくー!?

「知らない、です。」

「でも当選通知が来たってことは テストに応募はしたんだろ? 知
らねーっておかしくね?」

レミはオーバーリアクションでとにかく驚いていた。
ハヤトが口を挟んでくる。

「ほ、本当に知らないんです。当選通知だって届いた当田に捨てま
したし…」

そう、捨てた。

新手の詐欺だと思い込んで。

だって訳の分からぬ内容だったから。

「本当に知らないとは…」

三人共、心から驚いているという表情を浮かべている。

“WiS”はそんなにも有名なものなのだろうか。自分は一般常識も知らない世間知らずだったのだろうかと心配になる。

「もしかしなくともりつちゃんって、ゲームとかに疎いタイプ？」

「ゲーム？ゲームは全然…しないです。家にはテレビも無いしパソコンは持つてますけど、ネットはしません。」

「絶滅危惧種アナログ人間！？」

絶滅危惧種というのは大袈裟だが、今時珍しいくらいデジタルなものは苦手だ。

テレビは見ないからいらないし、パソコンだってレポートや課題をするときに使うだけで、ネットはほとんどしない。テレビにゲームにパソコン……デジタルが溢れるこの時代の中で、私は結構なアナログ生活を送っている。ちなみに新聞を読むのは好きだ。

外出時、財布とハンカチに並ぶ必需品と言われている携帯電話でさえ、上手く使い熟せないし、ショッちゅう携帯し忘れるくらいだ。

デジタルは確かに便利だけれど……

私の趣味はお酒と読書 アルコールを摂取しながら静かに本を読むのが何より好き。

アルコールと本さえあれば私は何時間だって過ごせるだろう……つまりところ、私は、デジタルが無くともアナログで充分満たされるしゃつていけるのである。

幼い頃から機械音痴だから、自然とデジタルを忌諱するようになつた、つて理由もあるけれど。

「話逸れちゃつたけど……WiSは世界初のVRMMORPGだよ。簡単に言うと仮想空間の中でするゲーム。」

「仮想…あー…ああ、」

仮想空間の中でゲームをする技術が確立されたのは知っていた。そのゲームのタイトルが“WiS”^{ウイス}かなるほど、知らなかつた。

「それでね、单刀直入に言つけど、今居るこの場所はWiSの中で間違いないと思う。」

「……え…」

な、何だつて？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5747v/>

奴隸商人の娘

2011年8月27日11時11分発行